



新年のごあいさつ

四国中央市長 篠原 実

「今年はマイナンバーカードを取りましょう。」

2023年がはじまりました。

今年はどうなるのかなど、自分のことより、その他たくさんのごに関心が移ってしまいます。

もちろん、自分と身近な人、直近の仕事などが東西南北頭の隅から隅までうごめいているのは当然であります。

それでも去年思っていたこと、特に今年にまたがって考えていたことなどは、色濃く薄めることなく、部門によっては去年よりクレヨンの色を濃くして、キャンパスに書き込んでみたくなることも多々あるのです。

それが、引き受けたこの仕事の宿命かもしれないなど、ほど良い布団のぬくもりに腕を組んで、ぽーっと

している正月の己の正体であります。

シロアリに食われて床がギンギンなり、油断すればコケるかもしれない我が家の住み心地は、寂しいものですが、それでもギンギンなる不気味の上ない不安定感のどこがいいのか、なかなか直そうとしない我が家の住民もたいしたものです。一応、戸主である自分が偉そうなこと言える立場ではありませんが……。

今年マイナンバーカードをお持ちでない方は、ぜひ獲得して機能的に使えるだけ充分使って、なかなか便利なものだな…としてみてください。

本年が市民各位にとりまして、明るく楽しいことが少しでも多くありますよう祈念申し上げます、市職員を代表して新年のご挨拶いたします。

新春のお慶びを

申し上げます

四国中央市議会議長 三宅 繁博

市民の皆さまには、日頃より市政並びに議会運営に對しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されたから3年、感染拡大、縮小を繰り返しながら、ウィズコロナでの経済活動、市民活動が動き出しています。

一方、長期化するウクライナ情勢、原油価格の高騰や物価上昇など、地域経済、市民生活を取り巻く環境は非常に厳しく、国を挙げて対策が講じられている中、全国の各自治体においても、複雑・多様化する諸課題に對し、迅速かつ的確な対応が求められております。

ポストコロナ時代の到来を見据えた新たなまちづくりの実現においては、行政と市議会が車の両輪としてそれぞれの役割を果たし、真摯な議論を重ねて最良の意思決定へと導くことが重要であり、四国中央市議会といたしまして、時代の変化に對した議会運営を目指し

ているところでございます。その取り組みの一つが、市議会のデジタル化です。

本市議会では、昨年9月定例会よりタブレット端末を活用したペーパーレス会議を開始、また、不測の事態に備え、オンラインによる委員会の開催が可能となるよう、委員会条例の一部を改正するなど、議会改革・議会活性化の歩みを継続しております。

今後においても、私たち市議会は市民の代表として、その役割と責任の重さを自覚し、私たちのふるさと、四国中央市の未来が明るく、希望に満ちたものとなりますよう全力を尽くしてまいります。

どうか皆さまの、一層のご支援、ご協力を賜りますこと、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が、皆さまにとりまして幸多き素晴らしい一年となりますことを心から祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。